

令和7年度 健康くまもと21推進会議 議事録（要旨）

開催日時 令和7年（2025年）10月16日（木曜日）14時00分～16時00分
場 所 会場参加または Teams 参加
出席委員 23名（会場22名、オンライン1名）
石橋 素子、大森 久光、川田 賢治、河野 由美、小山 登代子、
榮田 修治、佐藤 成美、田上 敬祐、寺岡 和廣、永田 智恵子、
長濱 一弘、原田 直、藤高 ちよ、古川 直枝、巻 章子、三浦 勲、
村田 礼子、山口 弘幸、吉田 精華、米村 和広、和田 史郎、
渡辺 猛士、渡邊 信子（五十音順・敬称略）

次第

- 1 開会
- 2 健康福祉局長あいさつ
- 3 会長あいさつ
- 4 部会報告
(1) 食の安全安心・食育部会報告
(2) 歯科保健部会報告
(3) がん部会報告
- 5 議題
第3次健康くまもと21基本計画の進捗管理について
- 6 取組紹介
(1) 熊本市全大腸内視鏡検査無償実施の開始について
(2) 熊本健康アプリ 10万ダウンロード達成記念企画について
- 7 閉会

議事概要

●部会報告

《事務局》

各部会から報告

意見なし

●議題 健康増進計画の進捗管理について

《事務局》

議題について説明

《大森会長》

施策3「健康になれるコミュニティづくり」の項目では改善率が非常に高い。環境整備という視点でも重要。知らず知らずのうちに健康になれることが理想。

悪化している項目もあるが、悪化した要因というものが分かれば教えていただきたい。

《事務局》

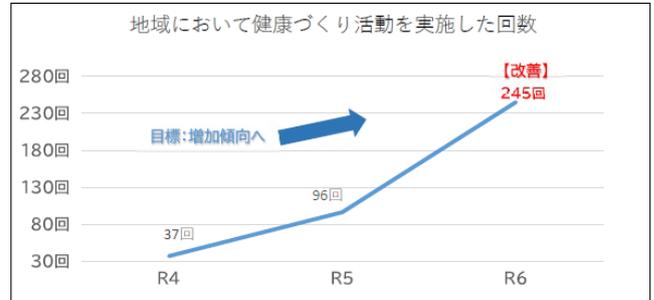
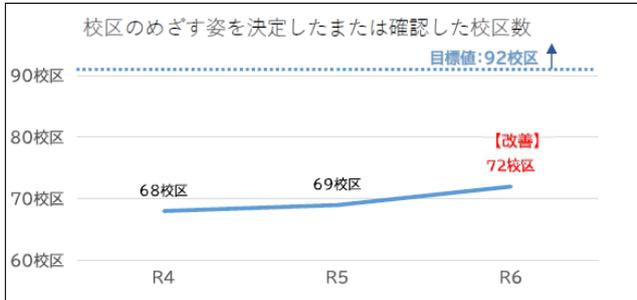
悪化の要因としては、明確にこれといったものは分からないが、指標ごとには別冊1の通り、悪化している項目が見受けられる。広く生活習慣を見直していただき、運動を取り入

れていただくなど、総合的に進めていくことが大事だと考えている。

先ほどお話があったとおり、「健康になれるコミュニティづくり」の項目「地域において健康づくり活動を実施した回数」などは改善している。一人ひとりの生活習慣の見直しだけでなく、コミュニティの中で支えあって健康づくりに取り組んでいただく取組が大切だと考えている。

3 健康になれるコミュニティづくり

(1) 校区単位の健康まちづくり



(2) 健康づくりを支えるボランティアの育成・支援

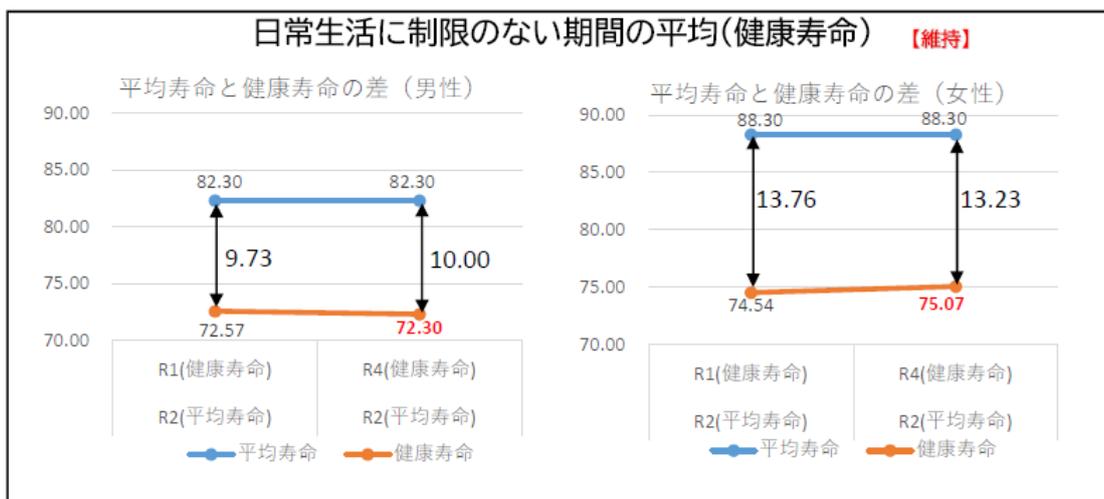


《大森会長》

健康寿命の推移はどうか

《事務局》

別冊1の2ページに掲載しており、令和元年度と令和4年度を比較して男性は僅かに悪化しているが、女性は僅かに改善しているため、評価としては維持としている。



《大森会長》

資料2の9ページに記載のある「健康増進カルタ」とはどういったものか。

《渡邊委員》

熊本県立大学で福祉を学んでいる学生と作成したもの。健康のためにどういことをすればよいか、という内容を川柳などにして書いたもの。例えば「腕立て伏せを3回する」といった内容が出れば参加者全員で行う。こどもも大人も一緒にすることができ、イベントでは大変好評。東区では糖尿病の患者さんも多いため、糖尿病に関するカルタの作成も現在進行中である。

《大森会長》

北区保健こども課で取り組まれている「ヘルシーライフチャレンジ」とはどういったものか。

《北区保健こども課》

熊本保健科学大学、KM バイオロジクス株式会社、北区保健こども課との産官学の取り組みで今年度始めたもの。KM バイオロジクス株式会社の社員 19 名に参加していただいている。血糖の推移をリアルタイムで見ることができるリブレという機器を2週間装着し、血糖を上げにくい生活習慣を知っていただく。そうすることで生活習慣の行動変容とその行動を持続していただくための動機付けを行う。それだけでなく、健康教育に関する動画配信等の支援を行いながら、行動変容が持続するかを追跡し、最終的には来年の健診で血糖、体重の変動を確認する予定。

この結果を踏まえて、行政のこういった支援が働く世代の方の健康行動の維持につながるのかを熊本保健科学大学と研究し、分かった内容を地域住民の方にお知らせしていく事業である。

《大森会長》

若い世代からの啓発は大切である。自己管理を行うサポートができれば良い。血圧の対策に関しては学会から新しいガイドラインも出ており、生活習慣の改善に関する良い情報も多い。企業などでも活用していただきたい。

《大森会長》

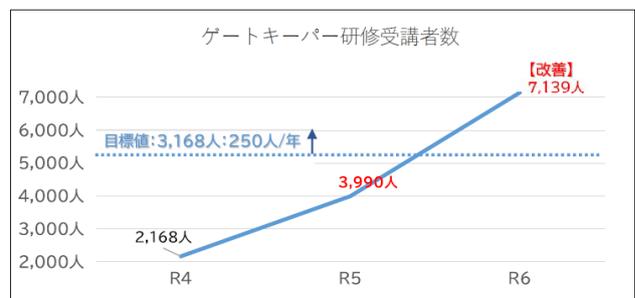
こころの健康づくりについて、寺岡先生にお伺いしたい。

《寺岡委員》

精神科の医師として、こころの健康づくりはなかなか難しい。まじめな方は特に、悩みがあっても仕事などをされていれば頑張らざるを得ない。

統合失調症の方は、糖尿病に罹患されていても、暑ければジュースを飲むといった相談がご家族からある。薬で良くなるものでもないため指導は難しく、体の症状も含めて、内科の先生とも協力していく必要がある。

(4)こころの健康づくり



《大森会長》

高齢者の健康においては、やせすぎも課題である。フレイルの問題や死亡率が上昇することが分かっている。筋力を維持するための食事も健康寿命を延ばすことにつながる。歯の健康も大切である。

資料 2 の 21 ページに記載のある東区保健こども課の介護予防等の取り組みについてご紹介いただきたい。

《東区保健こども課》

地域の保健師が地域活動の中で、会議や高齢者サロンに出向き、転倒骨折予防の啓発等を行っている。令和 6 年度の保健師による高齢者サロンにおける啓発実績は 30 回、参加者数のべ 497 名であった。

《長濱委員》

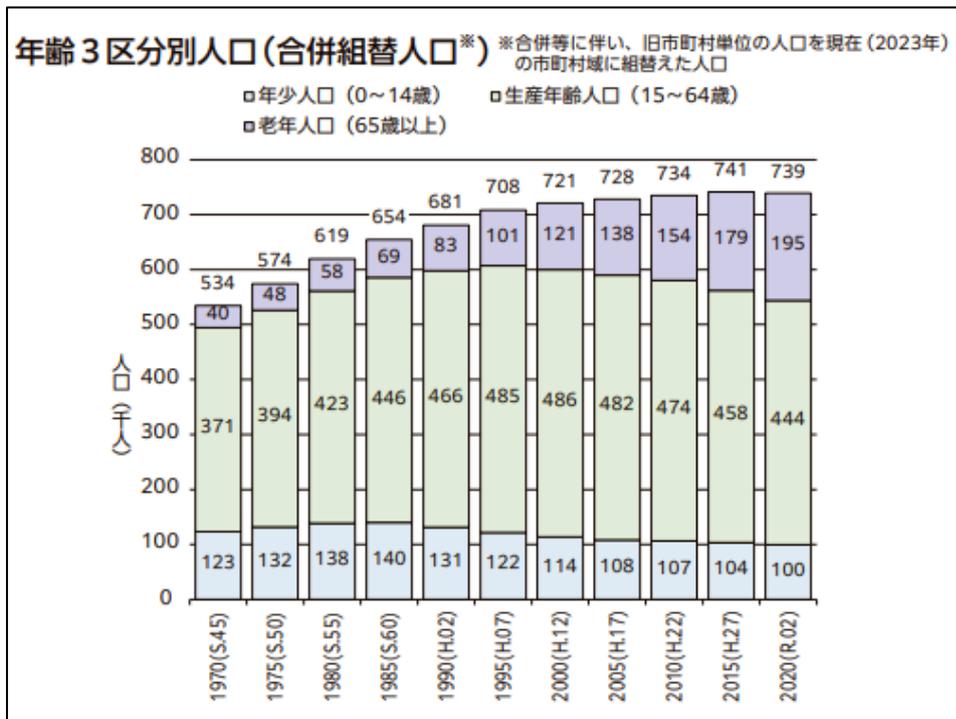
資料 2 の 17 ページに記載のある「ライフコースアプローチ」について、こども・働き盛り世代・高齢者の対象者が熊本市においてはどのような人口分布になっているのか興味がある。図になっている方が一般の方にも分かりやすいと思う。

「ライフコースアプローチ」については「健康日本 21」と同じ対象、順番であるのか。「女性の健康づくり」の項目はあるが、男性の健康づくりの項目がないため、熊本市独自で「男性の健康づくり」の項目作ることはいできないか。

《事務局》

「ライフコースアプローチ」については令和 5 年度に行った計画策定の際に、国の計画である「健康日本 21（第三次）」に沿って作成したものである。令和 11 年度に中間見直しを予定しているため、見直しの際に様々な評価を行う中で修正が発生するものと考えている。

(会議後追加) 熊本市における人口分布



出典：
熊本市第 8 次
総合計画

《長濱委員》

資料 2 については施策ごとに成果指標改善率のパーセンテージが出ているが、議事録でもよいので文章だけでなくグラフや項目一覧が記載されていると分かりやすいと思う。

《事務局》

見やすい資料について検討してまいる。

《大森会長》

他の政令指定都市と比較して、熊本市は健康といえるものか。

《事務局》

一概には言えないが、CKDの新規導入者数が多いという状況があったため、15年ほど前からCKD対策に取り組んでいる。

《長濱委員》

歯科部会報告の中で、「こどものむし歯有病率は政令市ワーストを脱却した」とのことであったが、具体的にはどれくらい順位が上がったのか。

《事務局》

政令市20市中20位だったが、令和5年度には1歳6か月児、3歳児両方において17位となった。平均には達していないが、大きく上がったものと感じている。歯科医師会、歯科衛生士会、学校、保育所等多くの方にご協力いただいている取組が徐々に浸透し、若年層から広がっていければと考えている。

《渡辺委員》

むし歯予防に関して、フッ化物洗口やフッ化物塗布を行政主体で歯科医師会も一緒に行っている。この取り組みは確実に効果が出るうえに費用もそこまでかからないため、ぜひ広めていただき、充実させていきたい。

糖尿病対策について、糖尿病対策ガイドラインの中に歯周病についての記載がある。糖尿病と歯周病に相互関係があることは明白であるが、糖尿病専門医から歯科医に歯周病治療についての依頼を行うことはほとんどない現状。そこで、歯科医師会の方で、糖尿病患者の歯周病治療を積極的に受け入れる歯科医院をリスト化し、糖尿病専門医との連携を実現できるよう計画している。

《佐藤委員》

むし歯予防に関しては、フッ化物塗布等が広がっていることから、今後さらなる改善が期待できると思う。また、乳幼児に対してフッ化物塗布の無料券が配布されているが、これは歯科のかかりつけ医を早期に持つということにもつながり、むし歯予防に効果があると思う。

先ほど話が出たフレイルに関連して、オーラルフレイル予防については歯だけでなく口腔機能全体が大切。口から食べることの重要性について市民公開講座を行う予定で、本日チラシを配布させていただいている。

《小山委員》

民生委員・児童委員は地域の福祉の推進に取り組んでいる。健康に関する課題は、高齢者で一人暮らしの男性の、孤立対策だと感じる。女性は比較的つながりが多いことが多く、男性は誘いをお断りすることが多い。本日も、独居男性向けのサロンを開催し、約20名が参加された。民生委員に勧められて渋々来られた方も、最後には来てよかったとおっしゃっていた。つながりはこころの健康にもつながり、各区保健子ども課とも一緒に活動している。ぜひ地域で目を向けてお声掛けして欲しい。

《長濱委員》

ぜひ男性の健康も健康づくりの取り組みに入れていただきたい。男性には前立腺がんなどの問題もある。

《小山委員》

男性にサロンなどに来ていただくために、男性限定で開催するなど工夫している。地域においても特に男性に目を向けて声をかけていただきたい。

《石橋委員》

食事は生まれる前から高齢者まで継続して必要なものである。食事を支えるために栄養士会としては様々な情報提供の準備をしている。情報発信の方法が課題で、今後ソーシャルメディアの活用を考えているところ。

男性高齢者などへのアドバイスとなるような情報もあるため、活用できれば良い。

●取組紹介

《事務局》

取組みについて説明

意見なし

【閉会】